

耐震鉄骨建築の新技術シリーズとその特徴比較 <特許登録・出願工法>

当社は、耐震鉄骨技術についての多様な要望にお応え出来るように、安全な構造を種々提供しております。

次の新工法は、単独、又は下記工法の組合せ、又は他社の工法との組合せで用いることが出来ます。本表の評価は、条件により変わりますので、目安です。

工法名称	耐震性	コスト 低減 (%)	3階 以下 *3	4～ 8階 *3	8階 以上 *3	外観 *4	複雑な 構造 *5	梁せい 低減で 重量減*6	柱径 (mm)	梁の 端寄せ	部品数	溶接量 低減 (%)	製作 工程 省略	その他
WAWO工法 *1	2.5倍	0～10							800 以下		1/2	30%	部品低減	新工法の 基本技術
一体化工法 *2	3倍	0～10							400 (500) 以下		1/4	50%	小組立 なし	2枚合わせの サイコロの場合 適用範囲が広がる
つばなし工法 *2	2.5倍	0～20							300 以上		1/2	30%	部品低減	ダイヤフラム重量 20%減
スロット工法 *2	4倍	0～30							300 以上		1/4	40%	小組立 中組立 なし	通し柱 (柱切断なし)
交差工法	2.5倍	0～20							400 以上		1/4	50%	小組立 中組立 なし	通し柱 (柱切断なし) 仕口梁剛性 1/2
段違い工法 (現場工法) *2	2.5倍	0～30							250 以上		1/2	30%	ボルト 接合なし	梁溶接は 現場施工

*1 在来ダイヤフラムを用いた場合です。*2 WAWO工法との併用が性能確保上不可欠です。

*3 建物の種類と形状等によってこの分類が変わることがありますので、目安です。

*4 仕口部が如何にスマートかが指標です。 *5 梁勾配・梁段差・柱絞り・柱板厚変化等がある場合への適用性です。

*6 中空サイコロ及びスカラップ工法を使用した場合との比較で、梁サイズ減又は重量減が期待できる場合があります。

記号 : 優れている、 : 良い、 : 普通、 : 要相談

(本表は予告無しで変更されることがあります)